

普連土学園校友会報

平成28年2月15日 普連土学園校友会発行 電話 03-3451-7700
第 95 号 東京都港区三田4-14-16 郵便番号 108-0073 F A X 03-3451-1959
責任者 富山 恵子 E-mail: f-koyukai@dance.ocn.ne.jp

二十二年間のパリ特派員生活

66回生 山口 昌子

目次
クリスマス礼拝
バザー報告 70年
座談会報告
クラス会より
学園大レポート
コンサート報告

聖坂を上りながら、母校訪問は半世紀ぶりだと気が付いた。前回は入学時に校長先生だったミス・ローズが久しぶりに訪日した時だ。ミス・

ローズは天皇陛下の皇太子時代の英語教師だった同じクエーカー教徒のバイニング夫人の後任だったので、パリでは「天皇陛下と同じ先生に英語を習った」と言っ、エリート以外は総じて英語が苦手なフランス人を煙に巻いていた。

この日、10月1日に母校を再訪したのは「創立128周年記念礼拝」で講演させていただくという名誉ある機会に恵まれたからだ。準備をしながら普連土での教育が自然に身についていたことを発見した。大学

では仏文を専攻したが熱心な英語教育のお蔭で仏語が通じない国での取材中に忘れていた英語が飛び出し、何度か助けられた。

講演時に浜野能男校長先生がお読みになる聖句を選んでほしいと富山恵子校友会会長から要請された時、パリに聖書を持参した旨をお話したら、「さすが普連土の卒業生」と褒めてくださったが、困難に陥った時には暗記させられた「聖句」が支えてくれた。実は聖書を持参したのは新聞社の先輩が「役に立つ」と忠告したからだ。知人の外交官が仕事に必要なので聖書の勉強をしていると聞き、「狭き門」が聖句だとは知らない日本人が多いことも知った。

フランスの国是は「自由、平等、博愛（連帯）」だが、「慈悲、寛容」などのキリスト教の精神ともどこかで繋がり、国の「かたち」を無理なく形成している。パリでは21年間にミッテラン、シラク、サルコジの3人の大統領をカバーしたが（仏大統領の任期は当初は7年、2000年

の憲法改正で5年に短縮したが長い。日本では同時期、14人の首相が交代した）、赴任直後に発生した湾岸戦争で、「国連の5常任理事国としての責務を果たす」と述べて参戦を決めたミッテランの支持率が60%以上に跳ね上がったのも武力で「自由」を奪われたクエートに国民が「連帯」したからだ。

シラクがイラク戦争に反対したのは、「大量破壊兵器」をイラクが隠しているとの米英らの主張に対し、「なし」と確認したフランスが米英とは異なる「自由」な判断を優先したからだ。サルコジが東日本大震災の時、真っ先に訪日し、原発大

国として常備している原子炉冷却用のホウ酸や甲状腺ガン抑止用のヨード剤、特殊マスクや手袋などを日本に送ったのも「連帯」の精神からだ。もっともミッテランには「隠し子」があり、大相撲ファンのシラクは日本が猛反対する核実験を再開し、サルコジは離婚、再婚した初めての大統領だ。こうしたフランスの多面性は多忙の要因となったが、なんとか無事に務めを終えることができたのも普連土のキリスト教に基づく「質実剛健」的な気風に支えられたからだと今、つくづく思う。



校友会クリスマス礼拝

天に栄光・地に平和

ルカによる福音書 2章 8-23節

関西学院大学名誉教授

東京女子大学元学長

船本 弘毅

今日は、普連土学園校友会のクリスマス礼拝にお招きを受け、うれしくまた光栄に思っています。

1964年にアメリカ留学から帰国したわたしは、母校の関西学院で教師生活を始めると共に、京都と大阪の中間にある高槻市で開拓伝導を始めました。6畳間で、足踏みミシンを講壇代わりにしての最初の礼拝でした。10年位過ぎた頃、東京から転勤された御夫婦が、可愛い女の子を連れて教会に來られました。普連土学園中学校から大阪女学院に転校

されたということでした。素直に成長され、紹介させて頂いた青年と結婚、2人のお嬢様に生まれ、幸せに過ごしておられたのですが、思いがけずガンを発病して、若くして亡くなられました。恵理子という名でしたが、これはイエスが十字架上で「エリ・エリ・レマ・サバクタニ」(我が神、わが神)と呼ばれたことから取られたものでした。終わりを悟った恵理子さんは、ご両親に「この病気がなったことで、わたしも少しは神に呼びかけることが出来る者になった気がします」という手紙を残して主の許に召されました。

ルカ福音書は「その地方で、野宿しながら夜通し、羊の群れの番をしていた羊飼いに、救主の誕生が最先に知らされた」と記しています。貧しく、顧みられる事の少ない人たちでした。エルサレムの王宮でなく、寒村ベツレヘムの村はずれの馬小屋での誕生でした。そこが仕えるために來られた十字架の主には、ふさわしい場でした。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」この喜びの知らせを、改訂英語聖書 (REB) は、Today there has been born to you...the Messiahと



現在完了形で訳しています。イエスの誕生は2000年前の過去の一事件ではなく、今も主イエスはわたしたちと共にいて下さると宣言しているのです。

今年「戦後70年」の節目の年でした。平和を願って出発しましたが、多くのテロや争いや災害がありました。その現実の中で今年のクリスマスを迎えます。神からの高価な贈物である救主を感謝して受け入れ「天に栄光・地に平和」をもたらしするために、1人ひとり新しい歩みを始める時でありたいと思います。

クリスマス礼拝には87名が参加されました。礼拝の後の親睦会ではサンドイッチと紅茶を頂きながら、コーラス部の方々によるクリスマス・キャロルに耳を傾けまた全員でも歌いました。25年振りに母校を訪れた方などもいらして、あちこちで再会を喜ぶ声が伝わってきました。最後に全員で校歌を歌った時は胸が熱くなり涙が溢れました。



今年度バザーが開催されました

バザー委員会報告

校友会バザー副委員長

77回生 谷口 栄弥子

「地球が温暖化している」と言われ随分になりますが暑さも毎年厳しくなってきました。

季節の変わり目がはつきりしない6月から、11月14日に開催される、後援会と共催の大規模なバザーの準備が始まります。当日は、雨にも関わらず、1300名のお客様が来場下さり、152名の校友生と23名の学外者の方達がお手伝い下さいました。雨のため室内にいらっしやる方も多く校内に懐かしい笑い声が聞こえました。

今回のバザーに向け、献品は昨年より少し少ない分、お客様とのコミュニケーションが取れ、アクセサリーは販売のやり方をうまく考え、手芸はセンスの先端を行き、どの部も本当に短い期間全力をバザーに向けて来しました。



また、委託部においては、新しい商品をリーダー達が発掘し少しでも皆様に喜んで頂くため日々頑張っています。今回つい2、3年前に卒業された現在大学生の方達もお手伝い下さりバザーを楽しんで頂きました。来年ももっとお声を掛け、今後の校友会を引っ張って頂きたいと願ってやみません。広範囲に世代を

2015年度バザー売上報告書

2015年12月19日
単位：円

摘要	売上	仕入	収益
アクセサリー	134,730	0	134,730
委託	1,336,427	1,031,143	305,284
献品	225,581	0	225,581
手芸	478,500	37,421	441,079
総務	34,381	0	34,381
奉仕	250	0	250
合計	2,209,869	1,068,564	1,141,305

奉仕部 単位：円

社会福祉法人かがやき会就労センター（クッキー・ラスク）	27,000
社会福祉法人武蔵野会 世田谷区立駒沢生活実習所（消臭ボンボン）	6,000
特定非営利活動法人STORY（石鹸2種類）	19,000
社会福祉法人東京都知的障害者育成会 大田区立南六郷福祉園（ポーチ・通帳入れ・ティッシュケース）	5,400
合計	57,400

超え、「大変。でも楽しい」と、交流を持てた幸せに感謝し、今後共、皆様のお力添えを頂きたく、ご参加をお待ち申し上げます。

また、皆様の力を合わせた収益は学園への寄付とさせていただきます。この伝統ある普連土学園のバザーが何時迄も受け継がれますよう。

最後になりましたが、このたびの開催に当たりまして、沢山のご協力とご助力に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



戦後70年

座談会

参加者 久米和喜子 (52A)、千田孝子 (53)、武井絹子 (54)、
 大多和弘子 (57)、吉田和子 (57)、伊藤恵美子 (61)、
 田中晶 (61)、富山恵子校友会会長、山本礼子校友会副会長、
 出版委員会より鈴木郁子 (66)、森本明子 (72)、
 今奈良友満 (121)、川上恵理佳 (121)

11月20日(金)に7名の卒業生をお招きして、戦中戦後の学園の様子や学生時代の思い出を語り合う座談会を開きました。戦争を知らない世代からすると、「戦中」ということばからイメージするのは楽しいことがない暗い日々ではないでしょうか。しかし、戦中戦後に学園に通ってお



られた校友生からお話をうかがうと、学生時代ならではの明るくきらきらしたザ・青春なお話をたくさん聞き取ることができました。なかでもとりわけ印象的だったものを取り上げました。

◇いまと変わらない？女子学生1◇

「(吉田さんは)19年に入学されて、学校に入ったらもうほとんど授業はなかったんですか。」

「学校みんなね、工場でしょ。私たちの下の学年かな、いたのは。なにしろすごく少なかったですから。石田先生だけだから、残ってらしたの。」

「石田先生はいらしたわね。」

「入学されたときにもう人数は少ないんですか。」

「入学したときは昭和19年の4月だから・・・」

「学年全部で100人でしたから、30数人1クラス。で、3クラスありました。英語の授業なんかでも、指されるとすぐまわってきちゃう」

「(笑)」

「それがすごく心配で、この次どうしたらいいかって」

「(笑)」

◇いまと変わらない？女子学生2◇

「あと思ひ出すのは、体育館がありましたよ。体育館のところ更衣室って別にあり

ましたでしょ。それが、小学校には更衣室が無かったので着替えるのが楽しかった」

「(笑)」



運動会(昭和23年(1948))

「狭いところでね。」

「ちょっと高かったでしょ、お2階と半2階みたいな感じで。そこから下をのぞいてね、あの人は誰かしらとかね」

「(笑)」

◇軍需工場 沖電気◇

「軍需工場っていうのは特殊だったというか信じられないことだから、みなさんの様子をうかがいたいなと思って。」

「外に出られた方・・・久米さんは外っておっしゃいましたよね。」

「そうですね、沖電気。」

「どうでした、そのときは。」

「なんだか精密機械の調べるのをやらされましたね。でもね、奥の部

屋に慶應の学生が見えるんですよ。」

「(笑)」

「たしか2組くらい結婚してるんじゃないの。」

「(笑)」

「そんなで、みんなイキイキしてましたよ。」

「(笑)」

「慶應のどっかの窓と普連土の窓とで連絡してね」

「(笑)」

◇給食当番の思い出1◇

「お給食当番っていうのが1年に、たぶん1回か2回くらいか回ってくるんですけど・・・」

「少しあったような気がしますね。」

「(笑)」

「その給食当番の時には午前中も午後も、午前中はほとんど授業出られないですけども、それが結構うれしんですよ」

「(笑)」

「わかります(笑)」

「まあでもあとで考えるとそこだ

す(笑)」

「(笑)」

「(笑)」

「(笑)」

「(笑)」

「(笑)」

「(笑)」



富山とき校長とエスター・B・ローズ先生

け抜けてて(笑) 宿題しそこなうと
 があるんですけど、でもそれが楽し
 くて。」

◇給食当番の思い出2◇

「おゆりおばさんってよく話だけ
 はうかがってるんですけど・・」

〔笑〕

「叱りとばされるのよね。」

「学校の、要するに給食のお手伝
 いをしてるおばさんだったわけね。」

「なにしろ言うこと聞かないとお
 こられちゃう。」

「石鹸を貸してくださいって言っ
 ても、石鹸は貸すんじゃないよ、減
 るんだからって。」

〔笑〕

「物がない時代だったからね。」

◇生徒主催の演劇会◇

「演劇会がよくありましたね。ア
 イステイックってありますで
 しよ、いまはないのかな。」

「スマックじゃないですか、あの
 頃は。」

「アイスマック。それをね、場
 内に売りまわったのを覚えています。」

「今考えるとずいぶん図々しいこ
 とを」

〔笑〕

◇いまと変わらない？女子学生3◇

「だいぶお話がくだけてきたから、
 ちょっと秘密のお話。ポールス先生

宅のリビングにおざぶとんを敷いて
 みなさんとお勉強していました。千

田さんがいとこさんから借りてき
 たっていうハリウッドのスターの写

真集を持ってらしたの。」

「写真集。それでみんなで騒いで
 見たり。」

「授業中はおざぶとんの下に隠し
 たり。」

「おもしろかったでしたよ。本当
 に写真集はカルチャーショックです
 よね。」

◇田町校舎からお引越し◇

「引越し
 の時に、みん
 なで机を運ん
 だりしたのは
 覚えてますけ
 ども。」

「ああ〜大
 変でしたね。」

「ずっと橋を渡ってね。陸橋を渡っ
 て。」

「うわあ〜大変だ。」

「今みたいじゃないから迂回した
 わけですね。」



田町の旧東京高等工業学校から新築校舎に引越しの日、机や椅子を運ぶ(昭和23年(1948))

「ずっと聖坂を上ったわけですよ
 ね。すごい距離ですよ。」

「それは机を2人で持って・・」

「ええ、そうですよ。それが幸か
 不幸かその机が軽いんです。」

〔笑〕

「杉のような板の、このくらい教
 科書が入るような棚なんです。2人
 分ちゃんと分かれてるんですけど、
 その軽い机ですから2人でこういう
 ふうにして持って・・」

「車なんかないですよそのとき。
 リヤカーだったんですけども
 の。」

「なんにもなかったですよ、人
 力ですよ。」

「じゃあすごい列で。」

「ありんこみたいに。」

〔笑〕

「ありの行列みたいだったと思
 いますよ。」

「なにこことかと思ったかもね、見
 てる人は。」

「私は恥ずかしくもなんともな
 かったんですが、この前お友達と話
 したら、あれは恥ずかしかったわあ
 っって。」

〔笑〕

「みなさんとやるからなんでも楽
 しいもので。」

「ええ。」

「わーわーきやーきやー、すごい
 賑やかだったんじゃないかしら。」

「と思いますよ。」

昭和16年12月	太平洋戦争の開戦
昭和18年4月	校名を普連土女学校から聖女女学校に変更
昭和19年4月	学校工場を開始 授業なし
昭和20年5月	空襲により校舎全焼
昭和20年8月	終戦
昭和20年9月	ポールス先生宅(今のフレンズセンター) 高輪教会で授業再開
昭和21年4月	田町駅前の東京高等工業専門学校の焼け跡 の教室で授業始まる
昭和22年4月	学制が新制になり校名も普連土学園に変更 今と同じ中学校・高等学校となった
昭和23年10月	第1期校舎落成 田町駅前から引越し

学制の変化

旧制	男子	中学校(5年)—高等学校(3年)—大学(3年)
	女子	女学校(5年)—専門学校(3年)
新制	男女とも	中学校(3年)—高等学校(3年)—大学(4年)

回生	入学	卒業	
52回生A	昭和15年	5年で卒業	旧制
52回生B	昭和16年	4年で卒業	◇
53回生	昭和17年	4年で卒業	◇
54回生	昭和17年	5年で卒業	◇
55回生	昭和18年	5年で卒業	◇
56回生A	昭和18年	6年で卒業	新制
56回生B	昭和19年	5年で卒業	旧制
57回生	昭和19年	6年で卒業	新制
58回生	昭和20年	6年で卒業	◇

121
回生の

成人を祝う会

2016.1.11
品川プリンスホテルにて

10年ほど続いている「成人を祝う会」に今年は115名が出席し、大盛況に終わりました。卒業以来2年ぶりに顔を合わせる友人も多く、皆この時を楽しみにしていたようでした。今年も幹事6名のおかげで大勢で集うことができました。

◆温かい優しい風の吹く田町の丘を121回生は2年前それぞれの夢を拓く場所へと飛び立ちました。新しい風に乗って高く昇っていく時もあれば、思いの他向い風が強く前に進めなかつたり、どちらへ向って飛んだらいいのかすら分からなくなる時も。

◆私はアメリカ留学をしていましたが、この度帰国し、成人式に参加いたしました。普通土同窓会の会場では、とても綺麗で、美しく、それぞれ個性のある花が咲いておりました。その光景があまりに眩しく、素晴らしい花々を支えてきた、数え切れないほど多くの人の力添えを思うと、感謝の念を抱かずにはいられませんでした。そんな、大切なことに気付かされる一日となったことをとても有難く、幸せに思います。ありがとうございました。（河原由貴）

◆会場で華やかな雰囲気の中、懐かしい顔ぶれが目飛び込んできました。121回生誰もが、大人な女性に成長していて、高3の修養会で話した「素敵な女性」へ着実に歩を進めていることを実感しました。いつも皆に会うと感じることはあるけれど、何十倍も「私まんばんなきゃ」と感じました。そう想わせてくれる121回生が大好きです。（村尾想）



121 回生集合写真

そんな私達がこの日、色とりどりの蝶のように華やかな姿で集まりました。一時羽を休め、笑いあい、懐かしい普通土の空気をいっぱい胸に吸い込み、またそれぞれの世界へ帰って行きました。また次、会う日まで。

（若尾実絃）

クラス会報告

99回生 佐藤 英美子

99回生の20名が懐かしい普通土学園に集うことができました。

卒業後24年が経ち、連絡先を十分に集めることができず、お声かけできなかった方が多くなったことをこの場を借りてお詫び致します。

会ではそれぞれの活躍の様子をうかがえて励みになりましたし、何より今でも、校服を着ていた頃と同様にあだ名で呼び合い、和気あいあいとほっと致しました。

浜野先生ご夫妻、伊藤文枝先生がその場の急なお願いにも関わらずご参加下さり、99回生一同嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

無人売店や給湯室を会の帰り際に撮影する姿も見られ、学園らしさに触れ、大切なもの・精神はいつまでも残ってほしいという思いと共に学園を後に致しました。



普連土たより

学校近況

百六十六信

10月1日の創立一二八周年記念礼拝では、産経新聞に勤務された66回生の山口昌子さんが「パリ支局長二〇年間の思い出」と題して、フランスの国民性や文化について、さらには3人のフランス大統領の人柄に纏わる様々なエピソードを語ってくださいました。

第53回学園祭（10月23・24日）のテーマは「Kaleidoscope ～千変万化～」でした。筒を回転させると様々な美しい模様に変化し続ける「万華鏡」を意味するこの言葉には、生徒一人ひとりのそれぞれが各自の役割を担い、互いにアイデアを出し合っ

て最高の学園祭を作り上げていくという思いがこめられています。家族公開日、一般公開日ともに天候にも恵まれ、多くの来校者を迎えることができました。

11月8日には後援会・校友会共催のバザーが開かれました。当日の天気は小雨が降り続く寒い日ではありませんが、多くの校友生、受験生、保護者の皆様が来校され大盛況でした。皆様の御協力と御支援で無事終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

した。今年度はかつて普連土学園に国語科教諭として勤務され、現在は大阪にある梅花中学校・高等学校の宗教部長である青木直人先生が講話をしてくださいました。

聖パウロの長い説教を聞いているうちに眠ってしまい窓から落ちてしまったエウテイコ青年を教会の恥とするのではなく、慰めとして受け入れた話から始まり、映画「千と千尋の神隠し」を題材として、自分の名前を思い出すことで本来の自分を取り戻す登場人物たちの姿から、「普く世界の土地に連なる」ようにとの願いをこめて津田仙氏が考案した「普連土学園」の名前の意味に今一度立ち返り、世界中の人々の異なる考え方や価値観を理解し受け入れながら、共に生きる姿勢を持つことの大切さを私たちに問いかける内容でした。

12月になり、講堂にはクリスマスツリーが飾られました。学園では、クリスマスの本当の意味を考えたために、クリスマス献金やプレゼント集め、5日間の特別礼拝を行い、22日にはクリスマス礼拝を迎えます。

（大井 治先生記）

130周年記念コンサート「レジェンド」



11月21日（土）、ずっと計画、準備し、皆さんにお声掛けしてきたコンサートが実現しました。ほぼ満席状態で13時半開幕。美しい歌声と合間に挟まれる絶妙なトークで聴衆は心を掴まれたままプログラムは進み、前半終了。

黒から真白なタキシードに替えての登場に客席はホォ。 「秋のメドレー」の後にサブライズが、「普連土学園校歌」。本当に美しい男声で聴く校歌。もう二度と無いであろう至福の時。

もちろん全員普連土ファンの客席は、素晴らしい旋律に聴入り堪能。当然拍手はそれまでの5割増でした。

その後、本場の「ヴラボー」の掛け方を練習したり、客席の横手から登場して皆さんにバラを配ったりと、心憎い演出を織り交ぜ予定を20分オーバーで終演すると、客席は総立ちの大喝采！校友会のコンサートで初めての快挙でした。そして終演後の握手会も大盛況の内に終えました。

様々な形で応援下さった皆さまにここでお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

（事業委員 川村 美保）

80歳になりました

◆傘寿のお祝い

傘寿を迎えられた校友生の方々に、浦口先生が描かれた絵葉書セットをお祝いにお贈りしました。何人かの方々からお礼と昔をなつかしむお便りをいただきました。

このページの内容についてのお問い合わせは、校友会事務局（03-3451-7700）まで。

校友会だより

◆校友会総会のお知らせ

2016年度の校友会総会を左記の要領で開催いたします。

日時 2016年5月28日（土）

11時

会場 普連土学園新渡戸稲造ホール／ローズホール

第一部では礼拝と校長先生の学校報告の後、事務会になります。事務会では2015年度の活動報告と決算、2016年度の活動計画案と予算案が議題です。事務会の後の催し物は準備中です。

第二部はローズホールで昼食、歓談とコーラス、校歌で閉会します。

◆事業委員会よりお知らせ

事業委員会では2016年秋にバスツアーを計画しております。行き先は秘密のミステリーツアー！個人ではちょっと行きづらい素敵な場所に皆さんをご案内します。日程・申し込み方法については後日詳細をお知らせします。

また、皆さんと感動を分かち合える

ような映画会も計画しています。どんな映画が良いか現在検討中です。（82回 大村）

◆出版委員会からのお知らせ

現在出版委員会では編集委員を募集しています。校友会活動に興味のある方ならどなたでも大歓迎です。年に10日程度ご都合の良いときにご出席いただければですので大変ということはありません。私を含め大学生が2名活動しておりますが、学業やアルバイトなどの学生生活に全く支障はありませんし、なにより笑いの絶えない会で毎回行くのが楽しみなぐらいです。各年代から集い、みなさまにより良い校友会報をお届けしていきたくと思っております。いつでもご連絡お待ちしております。



◆ホームカミングデーのお知らせ

昨年大好評だったホームカミングを今年も左記のように開催します。

対象回生 96・101・106回生

開催日 4月2日（土）11時～15時

会場 ローズホール

母校に集い旧交をあたため、学園の頃に帰って楽しいひとときをお過ごし下さい。多数のご参加お待ちしております。

ホームカミングは昨年より学校と校友会の共催で始まりました。来年度は97・102・107回生、再来年度は98・103・108回生が対象です。ぜひ多数ご参加ください。

また、ホームカミングの準備をお手伝い下さる方を募集しております。ご奉仕くださる方は校友会事務局所までご連絡ください。

訃報

謹んでお知らせ申し上げます。心より哀悼の意を表します。

39	青木ひろ子（西原）	15・5・2
40	杉崎佐喜子	15・1・15
45	五十嵐孝子（須田）	15・6・7
46	宮下 悦子（坂内）	14・11
48	岩井 甲子（北沢）	09・12・25
48	一ノ瀬孝子（宮島）	15・2・24
48	木村 良子（橋本）	15・6・6
52	A 椎名せつ子（武井）	14・6
52	B 久松 妙子	14・12・25
55	大原真知子（国分）	15・5・30
57	吉田 峰子	13・10・16
60	三枝タミ子（林）	15・9・22
64	西田 幸子（大野）	15・5・
64	甲斐 俊子（増田）	15・7・
79	高山 圭子（堀内）	15・6・16
81	上久保真理（吉田）	15・8・4
100	御園生涼子	15・6

編集後記 今期は暖冬と言われて比較的暖かい日が続いていました。1月中旬に東京近辺にかなりの積雪がありました。慣れない雪に足元が危ない一日でした。今年も受験シーズンがやってきました。風邪をひかないように元気で頑張ってください。「戦後70年座談会」では、誌面には載せられませんが、今迄知らなかった学園のお話をうかがえて有意義なひとときでした。

今回の会報はお楽しみ頂けましたか。ご意見・ご感想を是非お寄せ下さい。

（千田・田中・鈴木・森本・今奈良・川上）